

# レナフォ設立5周年を迎えて——子孫からよろこんでもらうには

レナフォ理事長 高野 義武

3・11の津波によって海岸沿いの松林の多くが倒され、津波に対して十分な防災・減災効果を発揮することができませんでした。地下水位の高い平地に生えていたマツは根が地下水位以下に伸びることが出来ず、根こそぎ倒されました。林野庁は3mの盛土をして地表面を地下水から離れた上で、依然としてマツの純林を造りつつあります。

イオン多賀城店では常緑広葉樹を主としたふるさとの森づくり方法による樹林ができていました。10年前に植えられたポット苗は7～8mの高さの森に育っていました。海岸から1kmの距離にあるこの店にも津波が押し寄せましたが、木々は倒れることなく、そこまで運ばれてきた沢山の車が森の前面に積み上げたように折り重なり、堰き止められました＝写真⑥。岩沼市の集配センターでもタブノキ・スタジイ・カシ類の常緑広葉樹の森が津波の漂流物をその全面で止め、被害はガラス1枚の破損で済みましたが、隣の運送会社の倉庫の建物は甚大な被害を受けました。



1995年の阪神・淡路大震災では揺れによるビルや橋の被害が多く、これを契機に土木・建築の耐震基準が見直され、以後の構造物は地震に対してかなり丈夫になりました。東日本大震災でも揺れが大きかったわりには構造物の被害が少なかったのはその成果であったといわれていますが、今度は津波が大きな被害を引き起こしました。失われた2万近い命を無駄にしないためにも、私達はこの地震の教訓を次の世代に生かさなくてはなりません。

昨年10月25日にIGES国際生態学センターとレナフォが共催してドイツ ハノーバー大学のリチャード・ポット教授をお迎えした特別講演会を横浜で開催しました。ポット教授は海面下に多くの国土を有するオランダで有史以来続けられてきた防潮事業を紹介されました。1953年の洪水後50年かけて実施した例では、海岸にゆるい勾配の盛土を築き、陸側斜面には潜在自然植生の森を作って異常な高潮に備えているということです。盛土材料である土はどこから持ってきたのでしょうか。彼らは付近の湿地帯を掘削して盛土用の土を生み出しました。盛土防潮堤斜面に育つ豊かな森には多くの鳥や動物が生息し、土取場跡地に出来た湖は水鳥や魚の住処となって観光と人々の憩いの場になっているとのことでした。

震災後、宮城県南部の海岸沿いに高さ7.2mの海岸防潮堤が3kmに渡って建設されています。盛土の上にコンクリートブロックを置いた構造で、従来あった防潮堤が津波で破壊されたのでこれを復旧したものです。海岸沿いに延々と続くコンクリート構造物は、海を陸とを冷たく分断しています。この一部の陸側斜面に腹付盛土を行い、その上にふるさとの森づくり方法で豊かで多様な森を市民参加で創る植樹式が6月30日に行われました。ふるさとの森づくりを各地で実施してこられた宮脇昭・横浜国立大名誉教授が国土交通省海岸室長の五道仁氏に働きかけ、実現したものです。植樹式当日は太田昭宏国土交通大臣も出席され、挨拶の中で「みどりの防潮堤、森の防潮堤のモデルとしたい。今後の国交省事業の出発点としたい」と表明しました。

コンクリートの寿命は長くて100年といわれています。1000年に一度の確立で発生するという巨大地震から人々を守るためにコンクリート構造物を建設するなら、同じものを10回造り替える必要があります(3月17日 JISE市民環境フォーラムでの高橋正征東京大学名誉教授の講演より)。

復旧・復興を掛け声にただ単に従来方式を踏襲するのではなく、オランダのようにじっくり時間を掛けて子孫から尊敬と感謝を受けられるようなものを創る努力が望まれます。宮城県岩沼市では井口経明市長が中心となって森の防潮堤づくりが進んでいます。はじめは海岸沿いの平坦地に津波避難用の丘を創ることでしたが、日置道隆氏(「いのちを守る森の防潮堤」推進東北協議会会長、レナフォ理事)の提案で丘の斜面にふるさとの森づくりを実施することとなったのです。

その第一歩は海岸から400m程離れた所に高さ3m、幅23mの盛土を築き、その斜面に潜在自然植生の森を創るものです。6月9日に30,000本のポット苗が植えられました。当初3000人の市民に参加して欲しいと計画していましたが、実際は4,500人集まりました。市民の関心の高さを感じます。岩沼市に続いて中央省庁も市民の願望に答えて欲しいので、国土交通大臣が700人の市民を前に述べた言葉を信じたいと思います。

お陰様で9月10日にレナフォも設立5周年を迎えました。会員の皆様にはこれからも一層のご指導、ご協力賜りたく、よろしく申し上げます。



# 会員募集中です



レナフォは、国内外で「ふるさとの森づくり」活動で協働する仲間を募集しています。いっしょにふるさとの森づくりを進めましょう。申し込みは <http://www.renafo.com/>

会員には個人会員と団体会員があり、受けられる恩典、年会費などは下記の通りです。

□正会員、賛助会員ともに受けられます

- ・自然林の再生による環境保全・防災減災・生物多様性などへの応援行動の情報
- ・情報誌「レナフォだより」の配送
- ・ホームページの会員専用ページへのアクセス

□正会員のみ受けられます

- ・総会での議決権を獲得
- ・ふるさとの森づくり専門家研修を割引価格で受講できる

□賛助会員に期待します

- ・認定 NPO 法人取得上の「寄付者」となり、レナフォの認定 NPO 法人化への支援となる

□年会費

- ・個人正会員            6,000 円
- ・個人賛助会員        3,000 円
- ・団体正会員           100,000 円
- ・団体賛助会員        50,000 円

## NPO 法人 国際ふるさとの森づくり協会 (ReNaFo)

理事長	高野 義武	土木・ふるさとの森づくり技術者、元国土交通省技官
副理事長	鈴木 邦雄	横浜国立大学長
副理事長	恩田 重男	東日印刷株式会社常勤監査役
理事	藤原 一繪	横浜国立大学名誉教授、横浜市立大学特任教授
理事	中村 幸人	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	前田 文和	株式会社エスペックミック相談役
理事	石村 章子	特定非営利活動法人地球の緑を育てる会理事長
理事	中嶋 義臣	株式会社関電工環境技術顧問、横浜市町づくりコーディネーター
理事	日置 道隆	曹洞宗輪王寺住職、
理事	新川 眞	IGES 国際生態学センター顧問
(事務局長)		
監事	原田 洋	横浜国立大学名誉教授
監事	高橋 秀行	株式会社馬淵建設設計室次長
事務局	今井 康二	

東京事務所 〒 154-0023 東京都世田谷区若林 5-21-1  
TEL : 03-3422-2765 FAX : 03-6805-2794

長野事務所 〒 389-1223 長野県上水内郡飯綱町袖之山 497-4  
TEL:026-253-4740 FAX:026-219-1203